

Go-Ahead 1

<https://toyono-jinikyo.com/>

令和元年度(2019年度) 10年経験者研修 開講にあたって (中堅教諭等資質向上研修)

今年度、豊能地区では、小学校教諭 78 名、中学校教諭 34 名、養護教諭 3 名、栄養教諭 1 名、合わせて 116 名の先生方が 10 年経験者研修を受講されます。

近年、教員の年齢構成の不均衡、学校教育における諸課題等、学校を取り巻く環境の変化に対して、法定研修の在り方の見直しが求められています。

そのような状況の中、豊能地区では、「子どもとともに学び続ける教職員」をめざす教職員像とし、法定研修を実施しています。

開講式では、兵庫教育大学大学院、浅野良一教授をお迎えし、「学校組織マネジメント」をテーマに、演習を交えてご講義いただきました。

教員 10 年目がどのような時期であるか、キャリアステージについてお話いただき、SWOT 分析では、自校を多面的に捉え直し、マイナス面も、見方をかえればプラス面になることに気づく等、学校組織を構築していく上で大切な要素について学びました。

組織を変革していく中で、力の入れどころはどこか、どのように意思統一すればよいか、現在、学校内外で、さまざまな役割を担う先生方にとって重要な観点について整理できたのではないのでしょうか。

浅野先生から「自分の関心や得意をいかして学校の隙間の仕事を自分から取りに行く。それが中堅の先生方が伸びるコツです。」という熱いエールをいただきました。

振り返りには、“経験の浅い先生へ自分が知っていることや教えてもらったことを伝えていきたい。”と今後へ向けて、新たな気持ちを書かれている先生も多くいました。今年度、10 年経験者の先生方が、初任者のメンターとなり相互に学び合う研修を予定しています。10 年経験者研修の全 5 回の共通研修は、豊能地区の教育を担う先生方への願いや期待を形にしたものです。必ずしも日々の実践に直結する内容ではないかもしれませんが、それぞれの研修が先生方のこれからのキャリアに役立つ研修であってほしいと願っています。

～ 振り返りシートより ～

日々、目の前の業務に追われている感じでしたが、本日の研修を受けることによって、日々の業務の意義等について考えるきっかけとなりました。外の強みと内の強みが合わされば、確かにすごい学校づくりができると思いましたし、その強みを発信していくのが私の役割なんだと認識することができました。

SWOT分析は現在の学校で一番必要なことでした。先生たちは一生懸命なのに、うまくまわらない時に、自分がどうしたらよいかと、考えていたことがすっきりと整理されたので、教職員全体で分析をしてがんばっていきそうな気がします。

一番印象に残った言葉が「ないものねだりではなく、あるものいかし」という言葉です。このことは私自身の仕事に対する意識だけでなく、子どもに対する意識の変化につながりました。「ほめて伸ばす」の言葉に重みを感じています。子どもたちの良いところを伸ばしていく決意がより固まりました。

今、自分が置かれている状況がよく分かりました。キャリア探索期からキャリア深耕期になる今、一芸をみがくという言葉に確かにそこが自分の今の課題であると感じました。経験の浅い先生が多い中で、すでに自分がアドバイスをする場面もありますが、もうその年齢にきていることを再確認しました。自校の良い点、強みを発見して、学校組織の中でできることを探してやっていこうと思います。

「三遊間のゴロにとびつく」という言葉が今日の講義で一番心に残りました。校内には誰がやってもいい仕事がある。それをチャンスととらえることが大切ということが分かり、実践していきたいと思いました。

**Webアップ
しています**

相互交流研修を「豊能地区教職員人事協議会」のホームページに掲載しています。「教職員研修のページ」をチェックしてください。

→ 申し込みは、各市町教育委員会(教育センター)へ